

まえがき

ADEOS-II 利用研究プロジェクトは下記の3つの科学目標を掲げて衛星打ち上げ前より実施してきた。

- (1) 気候システムにおける水・エネルギー循環の定量的把握
- (2) 地球温暖化問題に関連する炭素循環に関わるバイオマス量と基礎生産量の定量的把握
- (3) ADEOS 観測の継続に伴う長期的な気候変動シグナル変動の検出

こうした中でみどり2 (ADEOS-II) は2002年12月に打ち上げられ約10ヶ月間のデータの取得後2003年10月25日運用異常が発生し、残念ながらその運用を断念した。また、AMSR-Eを搭載したAqua (EOS-PM1) は2002年5月に打ち上げられ、2004年11月に89GHz-Aホーンの欠損が発生し、現在89GHz-Aホーンデータが取得できなくなったこと以外は現在も順調にデータを取得し続けている。

この間ADEOS-II利用研究プロジェクトはAqua打ち上げ後1年に当たる2003年6月にAMSR-Eレベル1プロダクトのリリースを開始したのを皮切りに2003年9月に高次プロダクトのリリース、ADEOS-II打ち上げ後1年に当たる2003年12月にAMSR, GLIデータを同時にリリース、その後バージョンアップなど順調に進行するとともに、エアロゾルや土壌水分など、従来困難とされていたパラメータの定量化など数多くの科学的成果を挙げてきた。

しかしながらみどり2の喪失、AMSR-Eに関しては打ち上げ後2年以上が経過し、定常運用から後期運用に移行するなどの状況が変化したこと、また、プロダクトのリリースも達成したことなどから、従来のアルゴリズムの開発を中心とした活動から利用拡大、さらに将来ミッションに継続するようにプロジェクト運営方針を以下のように定めた。

(1) AMSR / AMSR-E 利用研究

(1-1) 利用手法の向上と利用拡大

資源管理、地球環境への具体的な貢献に繋がる定常的なデータ利用を目指し、データ利用手法の高度化を図る研究に重点化し、GCOMの利用準備に繋げる。

(1-2) GCOM との関係

AMSR 後継センサの観測目標達成に必要な、検出精度向上へフィードバック

AMSR-E データのモデルへの同化技術を向上し防災気象情報、気候変動研究などへの貢献が期待できるため、主としてグローバルな水循環の定量化の利用研究を2年程度継続して行なう。

(2) GLI 利用研究

(2-1) 利用手法の向上と利用拡大

地域規模の人間活動による影響評価 (土地利用・土地被覆変化、植林活動、都市化

などによる環境への擾乱)など GLI データ(および MODIS 代替データ)の利用手法の高度化を図る研究に重点化し、GCOM の利用準備に繋げる。

(2-2) GCOM との関係

気候変動の不確定要因として着目される、雲・エアロゾル検知精度向上、GLI 後継センサの大気観測に重点となるエアロゾル種類判別、250m 陸域・沿岸域プロダクトの利用手法などに重点化した利用研究を2年程度継続して行なう。

また前回公募の研究期限が本年度で切れるとのことから JAXA EORC では以下の目的で ADEOS - II/AMSR, GLI, AMSR - E を利用した第3回研究公募を実施することとした。

- (1) ADEOS - II/AMSR, GLI, AMSR - E を利用するユーザの拡大を図る。
- (2) 従来の JRA での選考が行われてからかなりの時間が経過しているため、再度 JRA 代表研究者の研究継続の意思および研究計画の確認

1 項では募集分野、JAXA のファンディングの基本方針、プロポーザルの提出期限などの基本的な重要事項を述べるので熟読願いたい。

2 項では代表研究者に選ばれた場合の権利、役割、JAXA との契約方法などを述べる。なお、権利、役割等は従来の方式を踏襲する。

3, 4 項ではプロポーザルの応募方法、書き方、提出あて先などを示す。

最後に5項ではRAの選考の方法を述べる。

以上の今回のリサーチアナウンスメントの要点を理解していただき、みなさまからのよい提案が提出され、今後代表研究者として ADEOS - II 利用研究の目標達成に向けて共に努力していただくことを望みます。

1. 本 R A の重要事項

1.1 募集分野

プロジェクトの運用方針に従い以下の分野での研究テーマの募集を行う。

(A M S R - E / A M S R)

(1) E O R C が提供する標準アルゴリズムの高精度化及びそれに関連する検証

現在 E O R C が提供している標準アルゴリズムを別表 1 に示す。本テーマは別表 1 に示すアルゴリズムの高精度化をめざすアルゴリズムの改善及びそれに関わる検証実験の提案を受け付ける。基本的には従来のアルゴリズムの継続であるが、新規アルゴリズムの提案もあれば受け付ける。なお、従来の J R A において「複合利用、SeaWinds」に分類していた研究テーマもこのテーマの中に含めるものとする。

(2) 長期的気候変動（水、エネルギー循環）の研究テーマ

M i d o r i 2 の 3 つの科学目標の 1 つである長期的な気候変動シグナルの検出を達成するための研究テーマを募集する。従来の J R A において「地球科学」に分類していた研究テーマに対応する。

(3) 防災分野・資源管理分野における利用の検討などの利用実証テーマ

別表 1 に示した A M S R / A M S R - E が測定する水循環パラメータを用いて、防災・資源管理などに役立てるための研究テーマを募集する。従来の J R A において「地球科学」に分類していた研究テーマに対応する。

(4) 将来ミッションに引き継ぐ研究テーマ

G C O M - W に向けた複合利用などによる新規プロダクトのアルゴリズム研究、開発などの研究テーマを募集する。

1.2 ファンドの基本方針

(1) J A X A の役割上、上記 1.1 (1) 項に示した研究テーマを重点に J A X A の予算に応じて配算する。(2) ~ (4) に関しては 5 0 ~ 1 0 0 万円を上限として 5 件程度を目安として採用する方針とする。

(2) ファンドを希望する応募者でも、予算上配算できない場合 J A X A / 応募者間で協議の上、無償による代表研究者として選定する場合もある。

1.3 プロポーザルの提出期限および採否の通知

プロポーザルの提出期限をプロジェクトの進捗に妨げがないよう以下の 2 期に分割する。

(1) 第 1 期 提出期限：本 R A 発出後 2 ヶ月後 詳細はホームページにてアナウンスする。

募集対象：1.1 (1) にテーマにて早期に研究を開始したい場合で、有償/無償を問わない。

採否の通知：7 月上旬をメドに行う。

(2) 第 2 期 提出期限：8 月 2 0 日

募集対象：(2) ~ (4) のテーマにて後期より研究を開始し成果が得られる場合。
有償/無償は問わない。

採否の通知：9 月中旬をメドに行う。

1 . 4 代表研究者の権利と義務の要点

代表研究者に選定された場合の権利と義務は以下の通りである。

(1) 代表研究者になるためには、J A X A と共同研究契約を結ぶ必要がある。有償の代表研究者の場合の契約書および無償のそれを付録に和文、英文で示してある。代表研究者になるためには付録の契約書で契約を結ぶものとする。

(2) 代表研究者は J A X A の提供するデータを利用して研究を行うことができる。なお、研究発表に関しては J A X A のデータを使用したこと、および共同研究での成果であることを明記する必要がある。

(3) 有償による代表研究者は半期に 1 回進捗を報告し、期末に成果報告書を提出すること義務付ける。また、期末に J A X A が主催するワークショップに参加すること。参加を義務として、参加しなかった場合は新たに発表の場を設定するのでそちらで報告を行うこと。なお、有償の代表研究者の場合の J A X A のファンドにはワークショップに要する旅費を含むものとする。

(4) 無償による代表研究者は期末にデータを利用した研究の報告書を提出すること。契約期間に発表した論文でも代用可とする。また、期末に主催するワークショップにも極力参加すること。旅費に関しては J A X A の予算に応じてサポートを行う。ただし、参加は義務ではない。

1 . 5 研究期限

研究期間は J F Y 1 7 ~ 1 8 を原則とする。ただし、プロジェクトの進捗状況、J A X A の予算状況により 3 年を限度として延長を行う場合もある。

1 . 4 提案書提出先および本リサーチアナウンスメントに関する問い合わせ

〒104-6023 東京都中央区晴海 1 - 8 - 1 0

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワー X 2 2 F

第 3 回リサーチアナウンスメント 事務局 山梨、あるいは岩船宛

別表 1

NO	提供するプロダクト及びアルゴリズム
1	積算水蒸気量
2	積算雲水量
3	降水量
4	海面水温
5	海上風速
6	積雪量
7	海氷密接度
8	土壌水分量